

性別に偏りのない推薦にご配慮ください

性別に偏りが無い、多様な視点
の声を市に届けましょう！！



平塚市において、令和5年度の審議会等における女性委員の割合は、『**26.5%**』でした。本市では、令和6年2月に「ひらつか男女共同参画プラン2024」を策定し、さまざまな分野で女性が活躍できるよう、**審議会等への女性の登用**を積極的に推進しています。

なぜ、女性委員が必要なのか

市民の生活に直結した市政には、性別に関わらない多様な視点が活かされること、そして、誰もが対等な立場で、社会の様々な分野における意思決定や政策・方針決定過程に参画することが重要です。

しかし、政策・方針決定過程においては、男性主導が進められている場合が多く見られるなど、社会通念や慣行が根強く残っています。こうした社会通念や慣行を是正するために、女性の参画を拡大していくことが必要となります。



平塚市の審議会等における女性委員の割合



上の表は、本市における審議会等の女性割合の10年間の推移です。25から28%台で推移しており30%にも達していない状況です。当プランでは、「意思決定過程における女性の参画拡大」を施策の方向の一つとして、審議会等への女性の登用を積極的に推進し、令和13年度までに**女性割合40.0%**を目標に、様々な取組を行っております。

【参考】近隣市町の市審議会等の女性割合（令和5年度）



出典：内閣府「市区町村女性参画状況見える化マップ」

上の表は、近隣市町の審議会等の女性割合（令和5年度）です。横浜市（41.0%）や鎌倉市（40.1%）など4割を超えており、全国平均も32.4%と3割を超えています。

本市においても、より多くの女性の声を市政に届けるために、**積極的な女性委員の推薦**について、御配慮いただきますよう、よろしくお願いいたします。



こんなことはありませんか！？

慣例的に、市附属機関の委員には、会長を推薦しなければいけないと考えていませんか？
また、会長等は男性がやるものだと思いますし、男性がやるものではないでしょうか？

市民の生活に直結した市政には、多様な視点が活かされることが重要となります。是非、性別に偏りのない推薦にご配慮ください。

市附属機関の委員には
会長を推薦するものだ

会長は、男性が
やるものだ



◎ひらつか男女共同参画プラン 2024◎

「誰もが活躍できるジェンダー平等社会の実現」を目標に、令和6年2月に「ひらつか男女共同参画プラン2024」を策定しました。ジェンダー平等意識の醸成を図るため、文言の整理を行ったほか、男性の育児休業取得の促進（施策12）やセクシュアルマイノリティに関する理解の促進（施策22）を新たに盛り込んでいます。詳細は、本市のホームページをご覧ください。



2次元コード

ひらつか男女共同参画プラン

検索